

1 目的

(1) 豊かで思いやりのある子の育成

共感的に学び合う集団作りを基本とし、様々な心の触れ合い活動を行うことで、児童間また児童と教師間の信頼関係の構築を確かなものにします。さらに、学校が児童にとって自己を生かせる場、個性や能力を発揮できる場となるようにします。

(2) 授業力向上を図る

「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を進めることで、児童の多様な学力と児童の自己肯定感や他者への思いやりの気持ちを育むことができます。また、分かる喜び、学ぶ楽しさが味わえる授業を推進することで、進んで学ぼうとする意欲を喚起し、児童の思考力・判断力・表現力が高まると考えられます。それらのための教師の指導力向上を図ります。

(3) 命を学ぶ活動

学校と地域がパートナーとして連携・協働して児童の成長に関わり、命の尊さを感得させるとともに自他ともに健康で安全な生活を送ろうとする意識を高めます。

2 内容

(1) 豊かで思いやりのある子の育成

ア 異学年集団（青空グループ）の活動（縦割り活動）

協調性や社会性を養うため、全校児童を12のグループ（青空グループ）に分け、1年間活動を行いました。

顔合わせ時に行う遊び、除草や石拾いなどの清掃活動、運動会の種目としての綱引き、お世話になった方々への感謝状作りなど多岐にわたる活動を通して、児童相互のつながりを深めるとともに、集団の一員であるという自覚や愛校心の醸成を図りました。

イ ハッピートーク出前授業（5年）

9月には、ハッピートークアカデミー協会の方を講師にお招きして、前向きな言葉を積極的に用いることで、人間関係が円滑になることを学びました。

ウ 弁護士会による出前授業（6年）

2月には、県の弁護士会から講師をお招きして、人権擁護の観点から、いじめを生み出さない、いじめ予防をテーマに授業を行っていただきました。自分自身を大切にするとともに周りの人も同様に大切にすることで、お互いの尊厳を守る意識をもつことができました。

エ 篠田っ子見守り隊への感謝状の作成（縦割り活動）

毎日登下校を見守ってくださっている見守り隊の方々へ、日頃の感謝の気持ちを伝えようと感謝状にしてお渡ししました。メッセージに加えて、思い思いの絵や貼り物をして仕上げた感謝状は大好評で、地域との絆を深めることができました。

(2) 授業力向上を図る

ア 水泳指導の充実

2年間水泳の授業がなかった児童たちの安全・安心な水泳の技術向上と教職員が自信をもって水泳指導を行えるよう、6～7月に、ケーニーズの三輪先生を講師にお招きました。

実際に児童に指導しながら、児童への水泳指導方法を実践形式で教えていただきました。



【講師による水泳の授業】

イ 特別支援教育研修会

児童の特性を理解し、個に即した対処・対応を行うことは、教育効果をあげるためにも大切なことです。定期的に来校していただく学校教育相談員の堀田先生

や上田先生には、学校生活の様子を見ていただき、担任と情報交換を行ったり、指導のアドバイスをいただいたりしました。また、海部教育事務所の長谷川孝臣先生をお迎えして、児童に有効な指導の手立てを示していただきました。

(3) 命を学ぶ活動

ア 命を育む活動

① ウサギと金魚の飼育

ウサギと金魚を大切に世話することで、生き物に対して慈しむ気持ちや思いやりの気持ちを育ててきました。日々の世話は、飼育委員会が行い、休みの日にはボランティアの親子が楽しんで行ってきましたが、残念ながら今年の1月にウサギが亡くなりました。

子どもたちは、折り紙で作った野菜や楽しい思い出を残してくれたことへの感謝の気持ちを込めた手紙などを供えて、ウサギとお別れをしました。

② ジャガイモとサツマイモの栽培（1～4年）

地域の農業委員さんの協力を得て、ジャガイモとサツマイモの植付と収穫を体験させていただいています。

イモの栽培活動は、児童にとって土に触れる貴重な体験であり、楽しみな活動でもあります。特に、収穫時は、たくさんのイモを手にして、どの子の目も輝いていました。



収穫後は、調理して地の恵みに感謝していただきました。【ジャガイモの収穫】

③ 食育活動

児童が、一生涯にわたって健やかに生きていくことができるための基礎をつくるため、食事の重要性や栄養バランスの知識や食べ物を大切にする感謝の心について学年に応じて学びました。

中でも6年生は、栄養教諭の兼子先生をお招きして、弁当における栄養バランスについてご指導をいただき、弁当のメニュー作りに役立てることができました。

イ 命を守る活動

① 防犯教室（3年）

9月に3年生を対象に「ママプラス」の方々を講師にお招きして、キッズ防犯教室を行いました。自分の身を守るためにはどうしたらよいかをテーマに様々な身の守り方を教えていただきました。

② 歯科医師による口腔ケア指導

9月と2月に学校歯科医の渡邊先生をアドバイザーにお招きして、年2回の学校保健委員会を行いました。渡邊先生からは、口腔の健康が児童の心身の健康につながり、さらには児童の成長に大きく影響を及ぼすためとても大切であることを教えていただきました。

3 評価

新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、修学旅行や教育キャンプの宿泊の活動をはじめ、水泳指導や運動会など、行事の大半を予定通り行うことができ、充実感や達成感を味わうことができました。また、外部の講師の方々をお招きしての様々な活動により、児童および教職員が多様な体験を積むことができ、考えを広げたり、自分を見つめ直したりすることができました。

4 課題

今年度の子どもたちの様子は、日々のトラブルが多く見られました。

相手の話を傾聴したり、自分の考えを分かりやすく伝えたりするコミュニケーション能力を向上させることで、児童の自己肯定感・自尊感情・自己有用感を高め、日々のトラブルを回避したり、様々な活動への意欲を高めることにつながると考えました。

来年度は、今年度成果の見られた活動は引き続き継続し、それに加えて教職員も含めて人間関係調整力を高めるための研修を新たに実施して、篠田小学校の一人一人の心を育てるために力を注ぎたいと考えています。